

1 題材名 「さんすうマーケット」を作ろう

2 目標

「さんすうマーケット」の場で自らの算数的活動に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

手順図で学習内容や解決の見通しをもって意欲的に取り組み、振り返ることができる。

(関心・意欲・態度)

(A 児)

具体物、半具体物の数対象にかかわって、操作を確かめたり見直したりしながら、1～10の数を数えることができる。

(数学的な考え方・技能)

(B 児)

具体物、半具体物を10のまとまりを作って、10～100の数を数えることができる。

(数学的な考え方・技能)

(C・D 児)

かけ算・わり算の意味や計算の仕方を理解して、文章問題を読んで立式し答えを見つけることができる。

(数学的な考え方・技能)

(E 児)

小数のかけ算・わり算の意味や計算の仕方を理解して、文章問題を読んで立式し答えを見つけることができる。

(数学的な考え方・技能)

(F 児)

分数のかけ算・わり算の意味や計算の仕方を理解して、文章問題を読んで立式し答えを見つけることができる。

(数学的な考え方・技能)

3 指導観

本学級は、1年生1名、3年生3名、5年生1名、6年生1名の計6名の児童で構成されている。知的障がいの程度は、境界線から軽度の児童が多く会話が成立する。

学習への取り組み方をみると、興味のある課題には取り組めるが、集中力が短い児童、課題が分かりなるとか自分で取り組もうとする児童、課題が分かると進んで自分で取り組む児童と様々である。

見通しの活動では、どの児童も掲示された自分の課題の手順図を見て、操作の手順をつかむことができている。

見直し活動では、「さんすうマーケット」の場で学習課題を自分なりに解決したり、見直ししたりできるような教材・教具での操作活動をし、繰り返し取り組むことでどの児童も自力解決ができるようになるが、習得するまでには時間がかかり個人差も大きい。

見直し活動では、逆操作をさせたり、類似問題のワークシートを用意したりして理解の定着を図るが、個別指導が必要となる。振り返りを書く「ふりかえりカード」については、できたことをつけ、一人一人が自分の学習を振り返ることができている。また、みんなの前で計算の仕方を発表することもできるようになってきた。

本題材は、「さんすうマーケットを作ろう」の場で、A・B児は品物の数を数える操作活動、C・D・E・F児は問題文を読んでかけ算やわり算の計算を使って答えを見つけ、品物の表示カードを作る活動を行う。そして、自らの算数的活動を具体物(品物)や言葉で表現することによって、数と計算領域で段階的に設定された個に応じた内容の定着を図るものである。

具体的には、「さんすうマーケット」にある品物の個数を、〔A児は1～10までを5のまとまりを作って数える。〕〔B児は1～100までを10のまとまりを作って数える。〕また、品物の表示カードに書く内容を、〔C・D児は問題文を読んでどの計算(かけ算かわり算)を使ったらいいかを考えて立式して答えを出す。〕〔E児は小数の場合〕、〔F児は分数の場合〕でそれぞれ考え立式して答えを出す、という活動を行うものである。

児童は、「さんすうマーケットを作ろう」という意欲のもとに、数の操作活動に自分なりのやり方で取り組み、自らが数えたり、計算したりしたことを友達に伝えたり、マーケットに自分の

品物が並んでいったりすることで達成していく喜びに浸ることができる。そして、ものを数える力、数の表し方や大きさの違いを比べる力、計算の意味を理解し計算力を身につける力など、生活に必要な数理を習得し定着していくことができる価値ある題材といえる。

本単元の指導にあたっては、一人一人の児童に、自分なりのめあてをもって意欲的に課題に取り組み、数の基礎的理解を確かにしていけるようにしたい。

そこで、本単元において「見通し」と「見直し」の活動における支援の工夫を通して、算数における基礎・基本を身に付けることができるように以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ・ 一人一人の課題や手順図を提示して、全体の場で確認する。
- ・ 一人一人の教材・教具を用意し、操作の手順や学習内容をつかめるようにする。
- ・ 計算の仕方（既習内容）を想起できる掲示物を掲示する。

【ふかめる段階における「見直しの活動」の工夫】

- ・ 学習課題を自分なりに解決したり、見直したりできるように教材・教具を工夫する。

【ふりかえる段階における「見直しの活動」の工夫】

- ・ 学習した内容を確認することができる逆操作やワークシートに取り組む時間を設定する。
- ・ 学習内容と活動を振り返るために「ふりかえりカード」に記入させる。
- ・ 自分の課題解決の仕方や品物をみんなの前で発表させる場を設定する。

4 指導計画（約7時間）

(1) 「さんすうマーケット」の場と数の操作活動に出会う。----- 1時間

(2) 「さんすうマーケット」で数の操作活動をする。----- 5時間

A児	B児	C・D児	E児	F児	配時
1～10の数	1～100の数	かけ算・わり算	小数のかけ算・わり算	分数のかけ算・わり算	
6～8の個数を数える。	1～50の個数を数える。	かけ算で立式をする。	小数のかけ算で立式をする。	分数のかけ算で立式をする。	2
8～10の個数を数える。	60～80の個数を数える。	わり算で立式をする。	小数のわり算で立式をする。	分数のわり算で立式をする。	2
6～10の個数を数える。	60～100の個数を数える。	かけ算・わり算で立式をする。	小数のかけ算・わり算で立式をする。	分数のかけ算・わり算で立式をする。	1
					本時

(3) 「さんすうマーケット」のまとめをする。----- 1時間

5 本時 平成 年 月 日（曜日） 校時 教室にて

6 本時の目標

「さんすうマーケット」の手順図で自分の学習内容を見通しをもって取り組んだり、「ふりかえりカード」で学習を振り返ったりすることができる。（関心・意欲・態度）

数の数え方を理解して、数を発表することができる。（技能）

(A児) 計数箱を使って5と3で8・5と4で9・5と5で10で数えたり、数字カードを選んでなぞり書きをすることができる。数えた数を発表することができる。

(B児) 計数箱を使って10ずつまとめて数えたり、数字を書いたり、数えた数を発表したりすることができる。

問題文から式を立式して、計算の仕方を説明することができる。

(C・D児) 問題文を読んでかけ算わり算かを考えて立式し、計算したり、説明したりすることができる。

(E児) 問題文を読んで小数のかけ算わり算をを考えて立式し、計算したり、説明したりすることができる。

(F児) 問題文を読んで分数のかけ算わり算をを考えて立式し、計算したり、説明したりすることができる。

7 本時指導の考え方

児童は、前時まで「さんすうマーケット」でそれぞれの数対象と数や数式・ことばを結んで数の操作活動をしてきている。本時はその操作活動の第五時である。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

一人一人の手順図を提示して、一人一人に自分の課題、課題解決の手順をつかませるために全体の場で確認する。

一人一人の教材・教具を、操作の手順や学習内容をつかめるように机上に用意する。

かけ算九九・わり算の意味や計算の仕方、分数のかけ算・わり算の計算の仕方・小数のかけ算・わり算の計算の仕方の手順を書いた掲示物を掲示しておく。

【ふかめる段階における「見直しの活動」の工夫】

学習課題を自分なりに解決したり、見直したりできるように教材・教具の工夫をする。

・A・B児 具体物を操作して数えるための計数箱、数タイルやまとめる表の工夫

・C・D児 問題文を読んでかけ算・わり算を導き出す学習プリントの工夫

・E児 問題文を読んで小数のかけ算・わり算を導き出す学習プリントの工夫

・F児 問題文を読んで分数のかけ算・わり算を導き出す学習プリントの工夫

【ふりかえる段階における「見直しの活動」の工夫】

学習したことを確かめることができる逆操作やワークシートに取り組む時間を設定する。

学習内容と態度の振り返るために「ふりかえりカード」に記入させる。

時間の最後に、自分の課題解決の仕方や品物をみんなの前で発表させる場を設定する。

8 準備

・手順図(黒板掲示用)

・計算の仕方(わり算、小数のかけ算わり算、分数のかけ算わり算)を書いた掲示物

・A児の課題群(数える具体物、絵カード、計数箱(5の箱、1~5の区切りのある箱)、数字カード、タイルカード・まとめるプリント)「ふりかえりカード」

・B児の課題群(数える具体物、絵カード、計数箱(10の箱)、数字カード、タイルカード・まとめるプリント)「ふりかえりカード」

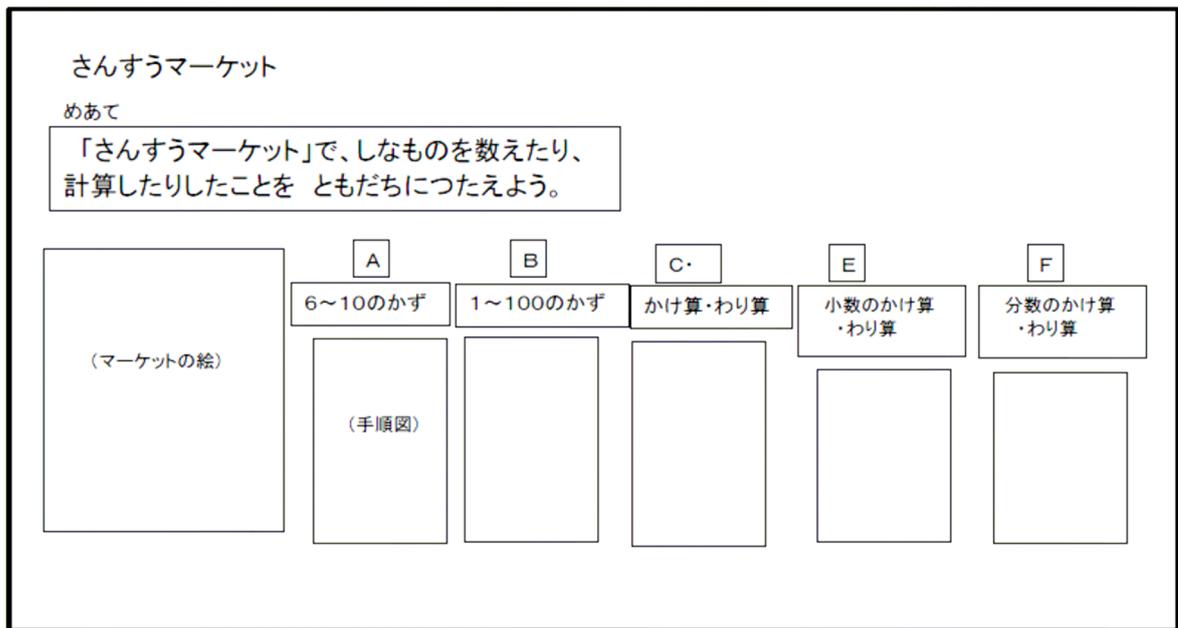
・C・D児の課題群(学習プリント、かけ算・わり算の問題文カード、ワークシート)「ふりかえりカード」

・E児の課題群(学習プリント、小数のかけ算・わり算の問題文カード、ワークシート)「ふりかえりカード」

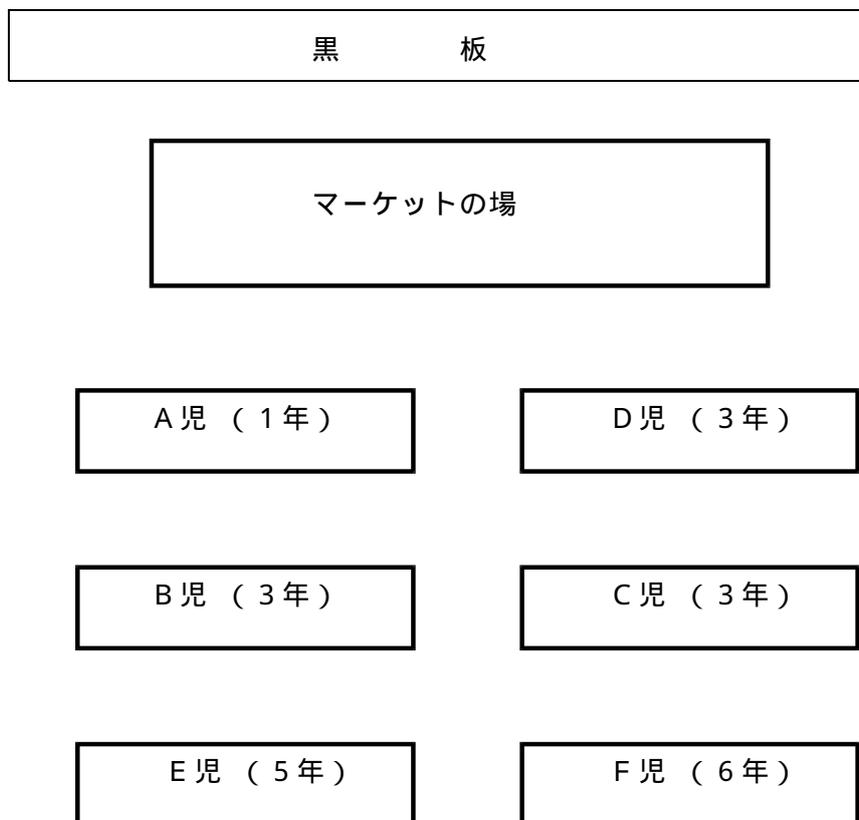
・F児の課題群(学習プリント、小数のかけ算・わり算の問題文カード、ワークシート)「ふりかえりカード」

・品物(具体物・半具体物)

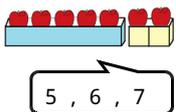
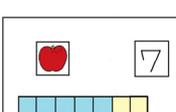
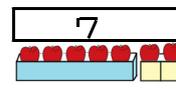
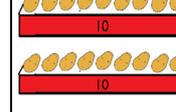
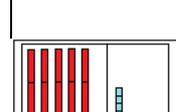
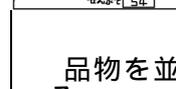
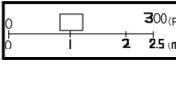
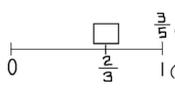
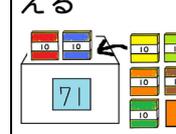
板書計画



座席表



9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ										
つかむ	<p>1 本時学習のめあてをつかむ。 【見通しの活動】</p> <p>(1) めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「さんすうマーケット」で、品物の数を数えたり、計算したりしたことを友だちにつたえよう。</p> </div> <p>(2) 各自の「さんすうマーケット」の学習のめあて、課題と手順を確認する。</p>	<p>○ 各自の「さんすうマーケット」の手順図を提示して、一人ずつ確認している。本時のめあてをつかませる。</p>										
	<p>2 自分の「さんすうマーケット」を作る。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>1年 A児</td> <td>3年 B児</td> <td>3年C・D児</td> <td>5年 E児</td> <td>6年 F児</td> </tr> <tr> <td>1～10 のかず</td> <td>1～100 のかず</td> <td>かけ算・わり算</td> <td>小数のかけ算・わり算</td> <td>分数のかけ算・わり算</td> </tr> </table>	1年 A児	3年 B児	3年C・D児	5年 E児	6年 F児	1～10 のかず	1～100 のかず	かけ算・わり算	小数のかけ算・わり算	分数のかけ算・わり算	<p>○ 全体での話が終わったら、自分の机に移動させる。</p> <p>○ 個別の教材・ノートを各自の机にセットしておき、自分から課題を進められるように、声かけを行う。</p>
1年 A児	3年 B児	3年C・D児	5年 E児	6年 F児								
1～10 のかず	1～100 のかず	かけ算・わり算	小数のかけ算・わり算	分数のかけ算・わり算								
つくる・ふりかめる	<p>(1) 品物の数を数える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>品物を取り出す。</p> <p>計数箱で数える</p>  <p>5, 6, 7</p> <p>タイルカード、数字と合わせてノートにまとめる</p>  <p>品物を並べる。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>品物を取り出す。</p> <p>10の計数箱で数える</p>  <p>10</p> <p>タイルカード、数字と合わせてノートにまとめる</p>  <p>品物を並べる。</p>  </div> </div> <p>(1) 計算したことを、品物の表示カードに書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>問題を読む 考え方を図や言葉で表す</p> <p>おり紙が24まいあります。このおり紙を3つに分けてふくろに入れます。1ふくろに何まいずつ入れたらいいか、計算してカードに書きましょう。</p>  <p>式を書いて計算する。</p> <p>しき $24 \div 3 = 8$</p> <p>答え 8まい</p> <p>答えをカードに書く</p> <p>品物にカードを貼って並べる</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>問題を読む 考え方を線分図で表す</p> <p>リボン2.5mは300円です。このリボン1mのねだんを計算して、カードに書きましょう。</p>  <p>式を書いて計算する。</p> <p>しき $300 \div 2.5 = 120$</p> <p>答え 120円</p> <p>答えをカードに書く</p> <p>品物にカードを貼って並べる</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>問題を読む 考え方を線分図で表す</p> <p>1dLで $\frac{3}{5}$ m</p> <p>の板をぬれるペンキがあります。このペンキ $\frac{2}{3}$</p> <p>dLでは、板が何mぬれるか計算して、カードに書きましょう。</p>  <p>式を書いて計算する。</p> <p>しき $\frac{3}{5} \times \frac{2}{3} = \frac{6}{15}$</p> <p>答え $\frac{6}{15}$ m</p> <p>答えをカードに書く 品物にカードを貼って並べる</p> </div> </div>	<p>○ A児には、15, 6, 71と、5のまとまりを意識して数えたり、ダイヤカードで表すことの指ボや発言をする。</p> <p>○ B児には、10のまとまりを意識して数えたり、ダイヤカードで表すことの指ボや発言をする。</p> <p>○ C児・D児・E児、F児には、問題文を讀んで、10ずつが○つ分10を○ずつ分ける、と1を読み取って、かけ算かわり算の式や答えを書き出す発言をする。</p> <p>○ D児には、小数の位置を確かめる発言をする。</p> <p>○ F児には、分数の計算の仕方を確認する発言をする。</p>										
ふりかえる	<p>(2) 逆操作をする。</p> <p>数字を讀んで、品物を数える</p>  <p>数字を讀んで、品物を数える</p>  <p>(2) ワークシートをする。【見直しの活動】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>1本が3円のクリップが7本ふくろに入っています。いくらでしょう。</p> <p>しき 答え</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>1.5mのリボンを0.5mずつ切るとなん本できますか。</p> <p>しき 答え</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>筆箱のねだんは600円です</p> <p>ノートは $\frac{1}{3}$ のねだんです。いくらですか。</p> </div> </div> <p>3 活動を振り返り、発表する。 【見直しの活動】</p> <p>(1) 「ふりかえりカード」に記入する。</p> <p>(2) 一人一人、品物を数えたり、計算したりしたことを発表する。</p>	<p>○ 各自のめあてにそった言葉かけを行い、児童から数字や数式、大事な言葉を引き出すようにする。</p> <p>○ 課題の進み具合や数字や数式等が正しいかを確認しながら、机間指導を行う。</p> <p>○ 終わったらワークシートに取り組ませる。</p> <p>○ 「ふりかえりカード」に活動を振り返らせる。</p> <p>○ 計算の仕方を自己発表させる。</p>										

各自のめあてにそった言葉かけを行い、児童から数字や数式、大事な言葉を引き出すようにする。
課題の進み具合や数字や数式等が正しいかを確認しながら、机間指導を行う。

A児には、「5,6,7」と、5のまとまりを意識して数えたり、タイルカードで表すことの指示や助言をする。

B児には、10のまとまりを意識して数えたり、タイルカードや数カード、数字で表すことの指示や助言をする。

C児・D児・E児、F児には、問題文を読んで、「ずつが 1つ分」を 1ずつ分ける」と読み取って、かけ算かわり算の式や答えを導き出す助言をする。

D児には、小数点の位置を確かめる助言をする。

F児には分数の計算の仕方を確認する助言をする。

終わったらワークシートに取り組みさせる。

「ふりかえりカード」に活動を振り返らせる。

計算の仕方を自己表現させる。